



IREI, the Spirituality of the Japanese

慰霊、日本人の精神性

INTRODUCTION

Seventy years passed since the end of the Second World War. Even after 70 years, many Japanese people mourn the deceased of the last war and pray for the peaceful world.

For the Japanese, IREI for the war dead is a natural practice. In other countries, national governments observe commemoration ceremonies for the war dead. However, are such ceremonies exactly the same as Japanese IREI?

Japanese IREI is deeply based on Japanese culture and faith and is sometimes difficult to understand for foreign people. For today's Japanese people 70 years after the war, it would be need to know this fact and try to promote this idea to abroad.

はじめに

第2次世界大戦終結から70年が過ぎました。70年が過ぎた今も、多くの日本人は先の大戦で亡くなられた人々を悼み、平和な世の中を祈っています。

日本人にとって戦死者の「慰霊」は、ごく普通の営みです。諸外国でも多くの国家が戦死者を追悼し、記念する行事を催しています。しかしそれは、果たして日本の「慰霊」と同じなのでしょうか。

私たちの考える「慰霊」は、日本の文化や信仰に深く根差したもので、諸外国の人々にとってはなかなか理解しづらい感覚です。日本人はそのことを理解し、それを外国人にもきちんと伝えてゆくことが、戦後70年を経た今日の日本に必要なこととなるでしょう。

INDEX

- 01 The Shinto Faith P.3
神道の信仰
- 02 Enshrining Fallen Soldiers P.5
戦歿将兵を祀る信仰
- 03 Yasukuni Jinja & Gokoku Jinja P.7
靖国神社と護国神社
- 04 The Place Where The Japanese Pray
for The Peace of The Country P.9
日本人が祖国の平和を祈る場所
- 05 What Is 'Irei'? P.11
日本人の「慰霊」について
- 06 Eirei : Kami Who Are Enshrined
at Yasukuni P.13
英霊：靖国に祀られた神



01

The Shinto Faith

神道の信仰

Since ancient times, Japanese people have expressed the divine energy or life-force of the natural world as *kami* and have worshiped them. Individuals who have made a great contribution to the state or society may also be enshrined and revered as *kami*.

Observing the Shinto faith includes worshipping ancestors as guardians of the family. Japanese have enshrined their ancestral spirits at altars in their homes.

There are jinja in Japan today where various *kami* are enshrined, particularly those who appear in the story of the Divine Age or historical figures. Among them are individuals known for their great achievements, such as the Emperor, politicians, scholars, loyal retainers, or brave *samurai*. Furthermore, some persons who died for the community are enshrined as *kami*. In Japanese society, people have shared the culture of deifying someone or something that showed special ability beyond the norm.

翻訳

古くから日本人は、神聖な力や自然界の生命力を神と表現し、崇拝してきました。国家や社会に対して多大な貢献を果たした人物も、神として祀られ崇められます。

また神道の信仰のなかには、祖先を家族の守り神として祀るということもあり、日本ではそれぞれの家庭で祖先の霊を祀ってきました。

日本では今日、神話の神々や歴史上の人物など、さまざまな神が神社で祀られています。その中には、天皇や政治家、学者、忠臣、あるいは勇敢な侍など、偉大な功績によって知られる人物もいます。また、公のために殉じた人が神として祀られることもあります。日本の社会は、並外れた何かを有する存在を神として祀る文化を有してきたのです。

解説

「^{まこと}尋常ならずすぐれたる^{こと}徳のありて、^{かしこ}可畏き物を^{かみ}迦微とは云なり」

江戸時代の^{もとよりのりなが}本居宣長という学者によって書かれた『古事記』の註釈書(『古事記伝』)では、「神」のことがこのように説明されています。

日本人は、実在した人物が神として祀られることにさほど違和感を持ちません。また、尾崎行雄が「憲政の神様」といわれ、松下幸之助が「経営の神様」、手塚治虫が「マンガの神様」とされるように、ある分野で顕著な功績を挙げた人や先駆者などが、異名として「○○の神様」と呼ばれることも広く見られることです。

こうした日本語の「神」は、英語の「god」と同一ではありません。多くの外国人にとってのGodはキリスト教のような一神教の創造主であり、神道的な「神」とはかなり印象が異なります。人物についてはキリスト教のなかでも、聖母マリアや聖人らを崇敬(respect)する考えはありますが、崇拝(worship)の対象はGodだけです。このような違いが英語圏でも認識されはじめ、近年では英語でも、神道独特の「神」を表す際は「*kami*」が一部で使われるようになってきています。

Enshrining Fallen Soldiers

戦歿将兵を祀る信仰

Japanese have equally enshrined spirits of those who died for the country in various wars—civil wars or world wars—since the mid 19th century, regardless of their social position or rank.

Every jinja in Japan is a place where deities or spirits are enshrined. Therefore, there are no remains of the deceased in a jinja. This includes jinja enshrining individuals as well.

Today, there are more than 50 jinja in Japan where fallen soldiers are enshrined, and numerous numbers of monuments were built in all parts of Japan.

In present Shinto, worshipping fallen soldiers as guardians of the country and people is a part of its faith.

翻訳

日本では幕末以降、内戦や世界大戦などさまざまな戦争で国のために殉じた人々の「御霊」を、生前の地位や身分の別なく平等に祀ってきました。

もちろん、日本の神社はいずれも神や御霊を祀る施設ですから、社殿には故人の亡骸や遺骨などは納められていません。それは人物を祀った神社も同様です。

日本では今日、戦歿将兵が祀られている神社が50社以上あり、さらに日本中には数え切れないほどの碑や塔が建てられています。

現在の神道には、祖国や人々の守り神として戦歿将兵を祀るという信仰があるのです。

解説

よく神社のことは「shrine」と翻訳されていますが、本来shrineとは聖人の遺骨や遺物を安置した聖堂や廟のことを指す単語です。そのため、特に戦歿者を祀る神社であれば、多くの外国人はshrineと聞くと「どこに遺骨や遺物があるのだろう」という誤解した疑問を持ってしまうことでしょう。

世界的に見ても、ギリシャのパルテノン神殿をはじめ神社に近い宗教施設はおおむね「temple」と英語で表現されています。templeは仏閣だけではなく、さまざまな信仰における神殿や寺院などの礼拝所全般を広く指す単語なのです。

「jinja」という言葉はまだ英語として普及している単語とは言えません。しかし誤解を避けるためにも、shrineではなく、きちんと説明したうえでjinjaを使ってゆくことが重要です。

また全国で菅原道真や徳川家康が祀られているように、人を神として祀ることも日本の伝統的な精神性であることを伝えてゆく必要もあるでしょう。

Yasukuni Jinja & Gokoku Jinja

靖國神社と護国神社

At Yasukuni Jinja, more than 2,466,000 spirits of those who died in wars since 19th century are enshrined. This number includes not only soldiers but also *samurai* warriors who died in the process of modernization as well as nurses and female students who worked in hospitals on the battlefields.

In addition to them, at Gokoku Jinja of each prefecture, the spirits of those who died when on duty, such as the war dead, Self-Defense Officials, police officers, and firefighters are enshrined.

‘Yasukuni’ means ‘peaceful nation’, and ‘Gokoku’ means ‘defense of the country’ in Japanese. As the names suggest, Yasukuni Jinja and Gokoku Jinja were established to wish for the peace of the country. Father Bruno Bitter, S.J. and other Catholic priests appreciated this idea, and they advised the Supreme Commander for the Allied Powers to preserve Yasukuni Jinja after the World War II. It is common for everyone in the world to have a place where people show respect to the war dead and wish for the peace.

翻訳

靖國神社には、近代以降の戦争で亡くなられた246万6千を超える人々の「御霊」が祀られています。その中には、軍人ばかりでなく、幕末の志士たちや戦地の病院で働いていた看護婦、女学生らも含まれています。

それ以外にも各地の護国神社には、その県にゆかりのある戦死者のほか、自衛官や警察官、消防官などの殉職者の御霊が祀られているものもあります。

「やすくに」とは「安らかな国」、「ごこく」とは「国の守り」という意味で、その名が示すとおり、靖國神社や護国神社は祖国の平安を願って創られた神社です。このことにはカトリックのビッテル神父も理解を示し、戦後GHQに対して靖國神社の存続を進言しています。戦死者に敬意を表し、平和を祈る場所を持つのは世界共通のことなのではないでしょうか。

解説

諸外国でも、戦歿将兵のための追悼や記念の施設、また追悼記念日が、近代戦争を経験した国家にとって不可欠なものとなっています。

しばしば靖國神社や千鳥ヶ淵戦没者墓苑と対比される米国のアーリントン国立墓地は、戦歿者らのための宗派を問わない共同墓地です。そのなかの無名戦士の墓には、身元の特定できない戦場の遺体から象徴的な一団が選ばれ、戦歿者らの代表として埋葬されています。これは英国のウェストミンスター寺院境内の無名戦士の墓もほぼ同様です。

先の大戦後の占領期、カトリック司祭のビッテル神父やバーン神父らは靖國神社について、国民的な戦歿者追悼の場であるから保存されるべきであると主張しました。GHQも信教の自由という理念のなかで神道を一宗教と認め、靖國神社は存続されることとなったのです。

04

The Place Where The Japanese Pray for The Peace of The Country

日本人が祖国の平和を祈る場所

Every year, about 5,000,000 people visit Yasukuni Jinja regardless of religion, faith, or nationality.

On 15th August, the Anniversary for the End of the Great East Asia War, many people visit Yasukuni Jinja from the morning to the evening. At noon, everyone observes a moment of silence with appreciation to the enshrined *kami* and pray for peace. It is a special day for the Japanese.

Yasukuni Jinja and Gokoku Jinja are places to show appreciation and respect to those who dedicated their lives to build a peaceful country. Furthermore, they are places to pray for everlasting peace and prosperity of Japan. This is the reason why many people visit Yasukuni Jinja and Gokoku Jinja throughout the year.

翻 訳

靖國神社には、宗教や思想・信条、国籍の違いを超えて、年間500万人もの人々が訪れます。

8月15日(終戦の日)、朝から夕方まで靖國神社への参拝者が途切れることはありません。正午には御霊への感謝と平和への願いも籠めて、一斉に黙祷が捧げられます。この日は日本人にとって特別な日なのです。

年間を通じて多くの人が靖國神社や護国神社を訪れるのは、祖国のために礎となられ、神社に祀られている先人たちに感謝と敬意を捧げて、わが国の平和と繁栄が末永く続くことを祈る、日本人にとってかけがえのない場所だからです。

解 説

日本人にとって毎年8月15日は「終戦の日」であり、戦死者追悼の象徴的な日ですが、多くの外国人にとっては馴染みのあることではありません。米国人にとっては5月最終月曜日が戦没将兵追悼記念日(Memorial Day)、ドイツ人にとっては11月3日曜日が国民哀悼の日(Volkstrauertag)であり、各国はそれぞれの国情にあわせて、戦死者追悼の日を設けています。

諸外国の人々がそうであるように、日本の国民は日本の戦死者追悼の日として8月15日にそれぞれ平和を祈っていますが、これは靖國神社や護国神社も同じです。靖國神社の祝詞では「御国の鎮」である御霊に対して、「四方の海」を「波風不立浦安の国」としていただくよう祈っています。欧米の報道ではwar shrine(戦争神社)と表現されることが多い靖國神社ですが、単に兵士を讃えるだけの施設ではなく、世界(四方の海)の平和(浦安の国)も願う神社であるということを伝えてゆくことが大切です。

05

What Is 'Irei'?

日本人の「慰霊」について

Japanese people mourn over those who lost their lives. Furthermore, they have given comfort to their souls through rituals and ceremonies. This is called '*irei*' in Japanese.

It is similar to Requiem Mass celebrated for the dead in Catholicism, but *irei* is not a prayer to God for the repose of the souls. It is thoroughly a performance to comfort each one of the spirits of victims.

Since the Meiji Restoration in 19th century, Japanese fallen soldiers who dedicated their lives for the country have been enshrined at Yasukuni Jinja or Gokoku Jinja as *kami* based on Japanese culture, and the Japanese have observed rituals for them. This is an aspect of '*irei*' in Japan.

翻訳

日本では命を落とされた人を追悼し、祭祀や式典を通じてその魂を慰めてきました。これが日本の「慰霊」です。

それは死者のために行われる鎮魂ミサのようにも見えますが、彼らの魂の安息を唯一神に対して祈るものではありません。それらはあくまでも、犠牲者それぞれの霊を慰める行為なのです。

近代以降、祖国のためにその命を捧げた日本の戦歿将兵らは、日本の文化に基づいて神として靖国神社や護国神社に祀られ、そして日本人は彼らに対し祭祀を執り行ってきました。これもまた、日本における「慰霊」のひとつです。

解説

一般的に「慰霊祭」は「memorial service」と英訳されます。諸外国における戦歿者などのための追悼行事と、その見方が似通っているからでしょう。

しかしmemorialは「memory」が形容詞化した単語であることからわかるように、「記念」や「記録」という意味が主です。そのmemorialや、類語のremembranceが戦歿者追悼に使われるときは、その人や出来事を「忘れない」という意味がまずあり、それに加えて死者に共感し慈しむ感覚が含まれると考えられます。

一方で日本語の「慰霊」には、死者の霊魂を慰め、さらにはその霊魂を祀り、祈りの対象とすることさえ含むことがあります。

欧米のキリスト教的文化のなかでは、死は神の元へ帰る入口であり、死者の霊がさまようという考えもありません。そのため教会でのミサは死者の魂の供養ではなく、Godに対して死者の魂の安息を祈る行事となります。死者の霊を「神」とまで考え、その御霊を直接慰めようとする日本的な「慰霊」の感覚とは大きく異なるのです。

06

Eirei : Kami Who Are Enshrined at Yasukuni

英霊：靖國に祀られた神

Enshrined *kami* at Yasukuni Jinja and Gokoku Jinja are especially called '*eirei*'. Its definition is similar to 'The Glorious Dead' in English. However, there is one thing very different: They are *kami* who are enshrined and prayed for at jinja.

Today, many events and rituals are held at Yasukuni Jinja, such as daily offering of sacred dance, annual ritual, cherry blossoms festival, lanterns festival, Noh theatre, sumo wrestling, pro wrestling and many more. From 1871 to 1898, even horse racing was held on the Jinja grounds. To entertain the enshrined spirits, various traditional arts are also performed as offerings. These are to comfort and amuse the enshrined *kami* by dedicating events that they enjoyed when they were alive.

Yasukuni Jinja and Gokoku Jinja can never be separated from '*eirei*' to mourn over the death of compatriots who dedicated their lives for the country.

翻訳

靖國神社や護国神社の神は、特に「英霊」とも呼ばれます。英語の「The Glorious Dead (栄光ある死者)」と似ていますが、一点大きく異なるのは、彼らは神社で祀られ祈られる神であるということです。

今日、靖國神社では永代神楽祭や例大祭、さくらまつり、みたままつり、能、相撲、さらにはプロレスなど、さまざまな行事や祭祀が催されています。明治時代には境内で競馬も行われていました。英霊にお楽しみいただこうと、さまざまな芸能も奉納されています。祀られる英霊が生前に楽しんだ行事を奉納することで、彼らをお慰めしようという目的です。

靖國神社や護国神社は、祖国のために自らを捧げた同胞の死を悼む「慰霊」とは不可分なものなのです。

解説

英国ロンドンのホワイトホールに1920年に建設された戦死者記念碑セノタフ(The Cenotaph)には、ただ「The Glorious Dead」とのみ刻まれています。このセノタフでは毎年11月11日に近い日曜日、全戦死者を追悼する行事(Remembrance Service)が催されていますが、少なくとも欧米社会では戦歿将兵(Fallen Soldiers)が一律に神や聖人として祀られるということは見られません。この点で、日本文化のなかで神として祀られる「英霊」との違いは明白です。

なお、日本の戦死者追悼行事と言えば毎年8月15日の「全国戦没者追悼式」ですが、この政府式典は宗教的に中立であるとされます。「追悼」という言葉は死者を悼み悲しむという意味であるため、宗教的な靈魂を前提とはしない語句だからです。式の英訳も「National Memorial Service for War Dead」となっていて、前項の通り「靈を慰める」という意味が含まれてはいないのです。それでも、壇上の標柱の文字が「全国戦没者之靈」であるのは、とても日本的と言えるのかもしれませんが。



www.jinjahoncho.or.jp